

図書館展示計画委員会報告

平成14年度は、春季および秋季の2回特別展を開催した。

春季特別展

「文字遺産集成 文字の出現から書物へ」

平成14年4月1日(月)～5月19日(日)

人類の二百万年の歴史の中で、文字の出現は約四千年前であると言われている。情報の伝達手段として生まれた文字は、幾多の時代を経てさまざまな移り変りを見せ、ITの進化により世界中に情報がリアルタイムに届く今日もなお、文字情報としての新たな歩みを続けている。

今回の展示では、人類最初の文字とされる楔形文字を記したメソポタミアの粘土板・印章や、ミイラを巻いてあったと思われる亜麻布に神官文字で書かれた『エジプト死者の書』、西ヨーロッパの典礼書断片、フランスシトー修道会のロマネスク体文字で書かれたラテン語文書など23点を展示したほか、「和名類聚抄」とその版木、インキュナブラなどを参考出品した。

人間が創り出した文字の初期の歴史の変遷を、おもに西洋の各時代を代表する文字とその書写材料でたどり、書物として形作られていくまでを展示した。粘土板や粘土円錐、円筒印章などの書写材料に始まり、亜麻布やパピルスから羊皮紙へと、さまざまな変化を見ていただけたのではないかと思う。



『楔形文字(碑文入り)タブレット』

秋季特別展

「英国近代女性作家展

ブルーストッキングからオースティン、プロンテの時代へ」

平成14年11月7日(木)～12月15日(日)

記念講演会

演題 「イギリス・フェミニズムの胎動
＜ブルーストッキング＞の女性
たちを中心に」

講師 文学部教授 坂本 武

日時 11月29日(金) 10:40～12:10

会場 総合図書館3階 図書館ホール

18世紀のイギリス社会は、教育制度も、あるいは結婚や遺産相続の制度なども、すべて男性中心に組み立てられたものであった。女性が学問をするということも社会的になかなか容認され難い世の中では、女性がものを書くということも、同様であった。

今回の展示は、そのような時代に活躍したイギリス近代の女性たちの作品を集めて、近代史の中の女性たちの隆盛期を展望しようとしたものである。ここに集められた女性たちの作品の多様さは、イギリス近代の抑圧システムの中で如何に彼女たちが声量豊かに、しかも独自の声を上げているかを示している。

主な展示品としてはエリザベス・カーター、ヘスター・シャポーン、キャサリン・トルボットのブルーストッキングから、ジェーン・オースティン、シャーロット・プロンテらの作品まで42点で、文学部坂本武教授執筆の目録は、それら1点ずつについて詳細な解説を記した内容の濃いものとなった。

なお、記念講演会ではブルーストッキングの女性たちを中心に歴史的背景や代表的な作品について貴重なお話をうかがうことができた。



エリザベス・カーター『折々の詩』ほか(於 展示室)